

秋季塗料講演会

「機能性塗料と環境対応技術の最新動向」

色材協会関東支部では塗料業界の技術向上と発展を目的として、春季と秋季の年 2 回の塗料講演会を開催しております。本年の秋季塗料講演会では、近年注目を集める機能性塗料の最新技術と環境負荷低減に貢献する技術動向について、最前線でご活躍されている先生方にご講演して頂きます。皆様にとって、今後の技術開発や製品戦略、環境対応技術の導入に役立つ貴重な機会となることを願っております。本講演会は技術系の方々だけでなく、塗料・塗装に係わる全ての方々に有用な内容となっています。本年の秋季塗料講演会が皆様にとって有意義な時間となるよう、準備を進めてまいりますのでぜひご参加を賜りますよう、心よりお願い申し上げます。

主 催 一般社団法人色材協会関東支部

協 賛 (予定)日本塗料工業会, 関東塗料工業組合, 東京塗料商業協同組合, 日本塗料検査協会, 応用物理学会, 日本化学会, 日本油化学会, 日本防錆技術協会, 表面技術協会, 腐食防食学会, 有機合成化学協会, 自動車技術会, 日本金属学会, 日本ゴム協会, 日本鉄鋼協会, 化学工学会, 材料技術研究協会, 日本塗装技術協会, 日本木材学会, 日本顔料技術協会, 日本建築仕上学会, 日本塗装工業会, 日本工業塗装協同組合連合会

日 時 2025 年 10 月 24 日(金) 9:40 ~16:50

会 場 東京都中央区日本橋三丁目 7 番 20 号 ディーアイシービル 2F 会議室
東京メトロ 銀座線・東西線, 都営浅草線 日本橋駅から徒歩約 2 分, JR 東京駅から徒歩約 5 分

参 加 費 会員 20,000 円
会員外 33,000 円(テキスト代含む, 税込)(協賛学協会員は会員扱いとします)
※テキストは事前に送付いたします。

定 員 100 名(先着順) お早めにお申し込みください。
テキスト送付の都合上、10 月 10 日(金)までにお申し込みください。

申 込 方 法 色材協会ホームページ(<https://shikizai.org/>)の申込フォームからお申し込みください。
参加費は銀行振込にて、講演会前日までにお振込みください。
銀行口座:三菱 UFJ 銀行 恵比寿支店 普通預金 No.1547898 (社)色材協会

お 問 合 せ 先 〒150-0013 東京都渋谷区恵比寿 3-12-8 東京塗料会館 201 号室
(社)色材協会 TEL 03-3443-2811 FAX 03-3443-3699
E-mail: admin@jscm.or.jp

参加ポリシー ・受講者は、講座内容の撮影、動画・音声の録画・録音を禁止とします。
・上記条件を理解・同意した上でお申し込みください。

演 台 と 講 師

1. 9:50~10:40 「三菱ケミカルの資源循環に向けた取り組み」

三菱ケミカル株式会社 根本耕司

欧州を中心に、自動車等への再生材の利用を義務付ける動きが加速している。サーキュラーエコノミーへの転換を産業競争力の強化の機会とすることができるだろうか。本稿では、持続可能なプラスチック製造に向けた三菱ケミカルの取り組みの一例として、再生材の利用促進のための企業間連携の実例を紹介する。

2. 10:50~11:40 「微細形状による機能性塗膜の形成」

オーウエル株式会社 橋谷田晃

塗膜の表面形状コントロールによる新たな機能性付与の可能性
*サメ肌形状による航空機表面摩擦抵抗削減、その他、取り組みについて

3. 12:50~13:40 「自動車塗装ラインの低温硬化への挑戦」

旭化成株式会社 竹野聡志

ブロックポリイソシアネート(BI)は低温硬化性と水系 1 液塗料での貯蔵安定性がトレードオフの関係にあるが、「従来技術に新規ブロック剤」を適用することで 80℃硬化 BI 製品上市を達成した。また、クリア層に低分子量の架橋剤を配合による下層への染込み効果も活用して自動車塗装ラインの低温硬化達成が期待される。

4. 13:50~14:40 「CN 実現に向けた自動車用金型内塗装用塗料開発」

日本ペイント・オートモーティブコーティングス株式会社 川合貴史

塗装は自動車製造工程の中で CO2 排出が多い事で知られ、CN 実現に向けた代替加飾技術が求められている。今回開発した金型内塗装では VOC や CO2 排出を抑え、更に塗装では出来ない意匠を実現可能であり、今後の拡大が期待される。

5. 14:50~15:40 「機能性塗膜としての濃厚ポリマーブラシ技術の応用展開」

京都大学 化学研究所 辻井敬亘

本講演では、濃厚ポリマーブラシの優れた表面機能、その発現機構の理解に基づく機能性ボルトブラシ架橋膜系の設計・検証、さらには、社会実装の取り組みとしての極低摩擦材料ならびに防着雪氷材料の開発について紹介する。

6. 15:50~16:40 「微生物による廃塗料の資源化技術」

一般財団法人 Inbound Japan 宮崎利久

2003年ホンダ技研工業との共同研究で、微生物分解による塗料スラッジの肥料化技術確立。その後、日産、ヤマハ等自動車関連の塗料スラッジ資源化へ技術提供。現在は塗料メーカー、塗装事業者へ溶剤・水系・粉体塗料及び塗料スラッジの資源化技術を提供中。分解に寄与する微生物群は、石油分解菌のアルカニボラクス属(Alcanivorax)他複合菌で構成されている。